

潮流



インフルエンザの予防接種に忙しい時期ですが、インフルエンザ菌b型（ヒブ＝Hib）ワクチンが今月十九日に発売されます。同じ「インフルエンザ」という名称で間違えやすいのですが、インフルエンザ菌というのは、冬に流行するインフルエンザ（流行性感冒＝流感）を引き起こすウイルスとは全く異なり、

鳥取県中部医師会副会長
NPO法人未来副理事長

松田 隆

一八九〇年に流行したインフルエンザの患者の痰から見つかった細菌のこころです。一八八七年に認可された方がよいのではないかとされています。一八九〇年には定期接種としてヒブワクチンを行っていたる米国では、鹿児島市や宮崎市では公費補助を行うことが決まっています。

このヒブワクチンは小児の細菌性（化膿性）髄膜炎の予防を主目的とし、膜炎の予防を主目的とし、作られました。脳や脊髄を覆っている髄膜に細菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

H i b (ヒブ) ワクチン

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

菌が入りこんで炎症を起すのが細菌性髄膜炎で、現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%はヒブが原因とされています。最近、このヒブによる髄膜炎が増加し、全国で年間約六百人が罹患し、そのほとんどは五歳以下

(倉吉市)